

富士山の環境保全と地域づくりをリード・渡辺豊博のプロフィール

農学博士 渡辺 豊博（わたなべ とよひろ）

1950 年生まれ。東京農工大学農学部を卒業後、静岡県庁に入庁して、農業基盤整備や NPO 支援事業などを担当。2007 年に農学博士号を取得し、2008 年より都留文科大学文学部社会学科教授。「市民活動論」や日本で最初の「富士山学」などを開講している。本業の傍ら、富士山クラブや富士山測候所を活用する会など、富士山に関係する 4 つの NPO 法人の事務局長職を歴任。また、ふるさと三島では、三島ゆうすい会やグラウンドワーク三島などで、地域づくりや水辺再生をしかける「まちづくりプロデューサー」を担い、あわせ、「富士山再生オピニオンリーダー」としての役割も果たしてきている。



富士山の湧水が街中を潤す三島は、古くから「水の都」と呼ばれてきた。しかし 1960 年代以降、産業活動が活発化すると、幼少の頃の遊び場であった川や湿地から湧水が消え、ゴミが捨てられるようになり、水辺の環境悪化が進行した。故郷が満身創痍の悲鳴をあげている中、やむにやまれぬ思いで、三島の水を守り、育てるための市民運動を行ううちに、最終的には母なる富士山の環境改善なくしては、三島の再生は成就できないとの信念に至る。

以来、静岡県庁の仕事が続けるかたわら、環境保全活動の範囲を順次拡大してきた。独立峰としての類まれな景観をもち、登拝信仰の聖山として多くの日本人に崇められ、また愛されてきた最高峰・富士山。その環境保全にかける情熱が、世界文化遺産登録として実現する。現在までの 30 年間にわたる、富士山と地域づくりへの地道で革新的な飽くなき取り組みが、市民主導の新たな国家システムの構築に向け着実に動き出し、今、コンピューター付きブルドーザーとしての戦略性が注目されている。

■ 「水の都・三島」の原風景・原体験を復活

1991 年に三島ゆうすい会を設立し、三島の水を守り、育てるための市民運動を開始。また 1992 年には、市民・行政・企業のパートナーシップの形成・強化を図るグラウンドワークの手法を日本で最初に英国より三島に導入し、グラウンドワーク三島（現在 NPO 法人）を立ち上げた。以来、理事（2012 年 7 月より専務理事）・事務局長として、具体的で実践的な市民運動の中核的な役割を担っている。これまでに、ゴミ捨て場と化していた源兵衛川をホテルが舞う美しい川に再生したり、市内から姿を消した水中花・ミシマバイカモの再生・復活などの多様な事業に取り組んできている。

■ 「富士山を世界遺産に！」その先導役としての役割を

1998 年に富士山クラブを設立（現在 NPO 法人）し、理事・事務局長として富士山の世界遺産登録を目指して、さまざまな先駆的な活動を仕掛けた。主な活動には、年間約 5,000 人が参加する富士山清掃活動や、富士山五合目と山頂への環境バイオトイレの設置、そして米国・マウントレーニア国立公園のレーニア山やニュージーランド・トンガリロ国立公園のナウルホエ山との富士山姉妹都市交流計画調印などが含まれる。さらに、携帯電話に位置感知システム（GPS）を搭載した情報伝達システムを民間企業と共同開発。山麓に捨てられた産業廃棄物を携帯電話にとりこんで、その正確な位置をホームページに流す仕組みを立ち上げ、産業廃棄物の削減にも貢献した。（2004 年に理事・事務局長を退任。）

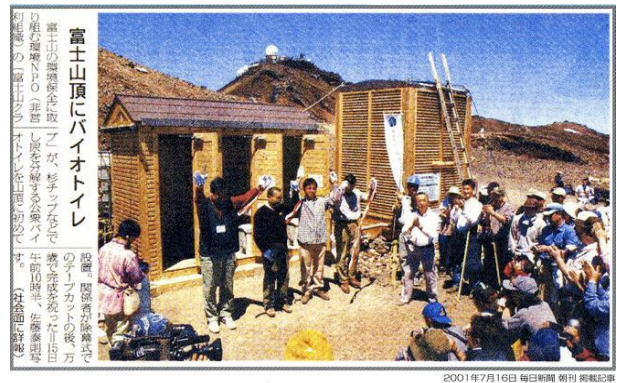
またその活動の一部を拡大的に引き継ぐ形で、富士山エコネット（現在 NPO 法人）を立ち上げ、環境調和型のエコツアーや環境保全実践活動を企画運営している。これまでエコツアーを通して富士山に案内した人数は、2 万人以上にのぼる。さらに、2007 年 5 月には、富士山エコネットの理事・事務局長の立場で、当時の安倍晋三首相を青木ヶ原樹海に案内する機会にも恵まれた。

2005 年には中曽根康弘元総理を会長とする NPO 法人富士山を世界遺産にする国民会議を立ち上げた。組織づくりや人的構成、活動指針などのお膳立てに奔走したことは有名。

2013 年 6 月 22 日には、カンボジア・プノンペンで開催された「第 37 回世界遺産委員会」にオブザーバーとして出席し、富士山の世界文化遺産登録決定の現場に立ち会った。現在、包括的保存管理計画の策定や、富士山の一元管理を進めるための「富士山庁」の設置及び「富士山立法」の制定、「富士山基金」の創設など、世界文化遺産登録後の課題と今後のあり方について提起している。

■ 誰もがなし得なかった、富士山のし尿問題の解決と富士山測候所の保存に挑戦！

富士山の登山客は、年間 25 万人とも言われるが、そのし尿は長年垂れ流しの放置状態だった。このし尿問題を改善すべく、2000 年より富士山クラブを通して、環境バイオトイレを設置するプロジェクトにとりかかった。富士山頂への環境バイオトイレの設置にあたっては、全国にボランティアを募り、1,000 人を超える市民から、杉チップや循環用の水の運び上げなどに協力を得た。気象状況の厳しい富士山頂上での実証実験を経て、環境バイオトイレの機能の有益性が実証された。富士宮市白糸の滝沿いでの環境バ



(毎日新聞掲載記事)

イオトイレ(©バイアニクストイレ)の環境技術実証試験において、環境省より認証が交付された。

また、気象衛星の発達などを背景に、2004年に無人化された富士山頂の富士山測候所を、環境科学、天文学、宇宙科学、高所医学、スポーツトレーニング学、地震火山学など、幅広い学問領域において活用することを目的とした富士山測候所を活用する会(現在NPO法人)を2005年に立ち上げ、初代の事務局長(現在、相談役)を務めている。

■ 富士山大好き人材育成へのアプローチ

現在までに、都留文科大学の教授・特任教授を務め、他に、静岡県立大学、早稲田大学、常葉大学などで客員教授を務め、社会人を含めた大学生に、富士山学、富士山の環境保全、世界文化遺産登録の光と影などについて講義している。また学外授業として、富士山の青木ヶ原樹海でのエコツアー、清掃登山、そしてお中道など歴史的な古道ツアーなどを企画し、参加した学生たちの多くは、富士山の環境保全を積極的に進めるオピニオンリーダーに成長している。

また、グラウンドワーク三島や富士山エコネットを通して、エコインストラクター、リバーインストラクター、富士山湧水インストラクターなどの養成にも力を入れている。養成したインストラクターの数は、2006年だけでも200人を超える。

■ 富士山の環境再生のノウハウを海外に展開

これら環境バイオトイレのノウハウを海外に展開すべく、グラウンドワーク三島を通して、2007年、アメリカワシントン州のマウントレーニア国立公園に環境バイオトイレ1基を設置し、実証試験を開始した。

また、カンボジアのアンコールワット遺跡やネパールのパシュパティナート寺院など、世界文化遺産や自然公園に普及する活動に取り組んでいる。

現在、2015年4月に発生したネパール大地震支援活動として、ネパールの現地への環境バイオトイレ設置に向けた取り組みも進めている。

■ 主な受賞歴（個人・グラウンドワーク三島等）

- ・ 農業土木学会「農業土木学会研鑽賞」「優秀賞」（共に2回受賞）
- ・ 農業土木学会 学会賞「環境賞」「著作賞（清流の街がよみがえった）」
- ・ 国土交通省「第2回日本水大賞」
- ・ 土木学会「2004年度デザイン賞最優秀賞」
- ・ 2004年水辺のユニバーサルデザイン大賞「大賞」
- ・ 朝日新聞社「第7回明日への環境賞」
- ・ 財団法人あしたの日本を創る会「平成18年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」
- ・ フジサンケイグループ「第18回地球環境大賞」環境地域貢献賞
- ・ 毎日新聞社・朝鮮日報社「第16回日韓国際環境賞」
- ・ 共同通信社「第1回地域再生大賞」大賞
- ・ 生物多様性アクション大賞実行委員会「生物多様性アクション大賞」審査委員賞
- ・ 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟「第5回プロジェクト未来遺産」
- ・ 公益社団法人土木学会100周年記念事業「市民普請大賞」グランプリ
- ・ 公益公財法人イオン環境財団「第4回生物多様性日本アワード」優秀賞
- ・ 公益財団法人都市緑化機構「第26回緑の環境デザイン賞」国土交通大臣賞
- ・ 日本水大賞委員会・国土交通省「第18回日本水大賞」環境大臣賞
- ・ 公益財団法人都市緑化機構「第37回緑の都市賞」都市緑化機構会長賞
- ・ 国土交通省ほか各省「第4回インフラメンテナンス大賞」メンテナンスを支える活動部門・優秀賞
- ・ 国連ハビタット福岡本部など4団体「2020年アジア都市景観賞」
- ・ 中部の未来創造大賞推進協議会「第21回中部の未来創造大賞」大賞
- ・ プラチナ構想ネットワーク「第9回プラチナ大賞」優秀賞
- ・ 三島市「第6回三島市景観賞」優秀賞
- ・ 公益財団法人社会貢献支援財団「第58回社会貢献者表彰」
- ・ 国土交通省「第37回手づくり郷土賞」一般部門受賞・ベストプレゼン賞
- ・ 公益財団法人日本水環境学会「2023年度水環境文化賞」

■ 主な著書

- ・ NPO実践論（ぎょうせい・共著）
- ・ 環境共生の都市づくり（ぎょうせい・共著）
- ・ 清流の街がよみがえった—地域力を結集 グラウンドワーク三島の挑戦（中央出版）
- ・ 英国発グラウンドワーク—「新しい公共」を実現するために（春風社）
- ・ 富士山学への招待—NPOが富士山と地域を救う（春風社）
- ・ 三島のジャンボさん—ミスター・グラウンドワーク（春風社）
- ・ 共助社会の戦士たち—NPO・社会的企業 成功への処方箋（静岡新聞社）
- ・ 失敗しないNPO—グラウンドワーク三島とイギリスに学ぶ（春風社）
- ・ 富士山の光と影—傷だらけの山・富士山を、日本人は救えるのか!?!~（清流出版）
- ・ 先生、NPOって儲かりますか?—若者たちが地元で賢く生きる方法—（春風社）
- ・ 富士山を壊すのは誰?—「富士山登山鉄道構想」が観光立国日本をダメにする—（泉書房）

（2024年8月現在）